

秋から冬へ



季節は、秋から冬へと移り、校長室から見える片曾根山の表情も変わってきました。石崎校舎の畑では、白菜が収穫の時を迎えています。子供たちも、ブーツを履いたり、毛糸の帽子をかぶったりして、登下校するようになりました。

学校も、冬の雪に備え、子供たちの安全を確保するため、それぞれの校舎に除雪機が配置されました。各教室においては、暖房設備の点検を行うとともに、乾燥に備えて加湿器も配置されました。

そして、地域の方から提供いただいた“めだか”も、校舎の中に引っ越しをしました。大きな桶に入っていた“めだか”は、住処を水槽に変え、毎日元気に泳いでいます。子供たちは、上からのぞいていた“めだか”を、今度は、横から見えています。見え方が変わることで、見方が変わりました。子供たちは、見方が変わることで、今までよく見えなかった、めだかの眼の様子や餌を食べる様子など、指を指して喜び、それを周りの友だちや教師に伝え、様々な発見を楽しんでいます。



冬の片曾根山です。



「除雪機」たよりにしています。



物置も設置されました。



暖房設備や加湿器などで環境を整えます。



冬の野菜「白菜」もすくすく育っています。



”めだか”は・・・



水槽に引っ越しをしました。



「あっ！」



季節が変わることで、周りの様子が変わります。

何かが変わった時は、学習のチャンス！

子供たち一人ひとりに合わせた言葉を添えて、「変化に気づき心が動く」働きかけを心がけていきたいと思います。

平成29年12月



～児童生徒一人一人の夢の実現をめざして～

福島県立たむら支援学校長 齊藤 恵子